27AB-pm217

早期関節リウマチ診断における新規疾患活動性評価 MBDA スコアの有用性の検討 ―第 2 報

○伊藤 萌子[1], 皆上 翔太郎[1], 新穂 彩[1], 浅山 りん[1], 城田 愛理[1], 宮川 千珠[1], 樋浦 一哉[2], 竹田 剛[3], 渡辺 泰裕[1], 江川（岩城） 祥子[1]（[1]北海道薬大, [2]札幌厚生病院薬, [3]北海道中央労災病院せき損センター）

【目的】関節リウマチ(RA)の疾患活動性評価方法として DAS28 (disease activity score-28)などが用いられているが、患者の主観や医師の技量が影響することから、客観的な評価方法が求められている。近年、血清中の 12 種類のタンパク質を利用する MBDA (multi-biomarker disease activity)スコアが新たな疾患活動性評価法として報告されたが、我が国ではほとんど報告がない。今回我々は、MBDA スコアの早期 RA 患者診断ならびに治療効果判定における有用性について、DAS28 および CDAI (clinical disease activity index)、SDAI (simplified disease activity index)と比較検討した。【対象・方法】関節痛を主訴として、発症から 6 ヶ月以内に帯広厚生病院に来院した未治療の診断未確定関節炎(UA)患者 (n=101)を対象とし、このうち 51 名がその後 RA と確定診断された。患者の初診時、3 ヶ月後、6 ヶ月後の血液を用いて 12 種類のバイオマーカー (CRP, SAA, IL-6, EGF, VEGF-I, VCAM-I, MMP-1, MMP-3, TNFR-I, YKL-40, leptin, resistin) を ELISA 法で測定した。アルゴリズムで 1-100 の MBDA スコアを求め、DAS28、SDAI、CDAI と比較した。【結果】UA 患者の内、その後 RA に進行した患者群の初診時の MBDA スコアは、健常者、変形関節症や線維筋痛症に進行した患者群の初診時 MBDA スコアと比べ有意に高かった。確定 RA 患者では、MBDA スコアと DAS28 には相関性があるとされているが、今回、RA に進行した患者では、早期においても DAS28 と相関性がみられた。【結論】RA に進行した患者群では、初診時 MBDA スコアは他疾患と比べ有意に高い傾向が見られたことから、カットオフ値を求めることができるならば、今後の RA 早期診断に応用できる可能性が示唆された。現在、治療経過と MBDA スコア、DAS28、SDAI、CDAI との関連について解析中である。